

2024(令和6)年10月25日

省エネルギー車両の13000系車両を増備します

○2026年度にかけて67両を導入し、安全性・快適性の向上を図ります

○新造車両への置き換えで、年間約3,400t^{*}のCO₂排出量削減効果を見込みます

京阪電気鉄道株式会社(本社：大阪府枚方市、社長：平川 良浩)は、循環型社会の実現に向け一層のCO₂排出量削減を目指した取り組みとして、2024年度から2026年度にかけて、鋼製の旧型車両の代替として、省エネルギー車両である13000系車両を67両増備します。

13000系は通勤車両として2012年より順次導入している車系で、これまでに5次車まで計119両導入しています。今回導入する6次車・7次車には、防犯対策として2020年度以降に新造した5次車から設置している車内防犯カメラを引き続き設置し、安全性・快適性のさらなる向上を目指します。

2026年度に導入が完了すると13000系は計186両になり、京阪線を走行する全車両のうち30%以上となる見込みです。今回の13000系の導入と旧型車両の置き換えにより、年間約3,400t^{*}のCO₂排出量の削減効果を見込んでいます。

※ 試算値

京阪グループでは2030年までにより良い世界を目指すSDGsの達成に貢献するべく「BIOSTYLE PROJECT」に取り組んでいます。13000系の導入も本プロジェクトの一環です。

記

1. 導入内容

2024～2025年度 13000系 18両新造(6次車)

2025～2026年度 13000系 49両新造(7次車)

2. 13000系車両の概要

京阪線2200系、2600系の代替用として、2012年に「お客さまにやさしい鉄道」をテーマに環境への配慮、バリアフリー対応、安全性向上に重きを置いて新造した省エネルギー車両です。軽量のアルミ合金車体を採用しているほか、電力を効率よく利用する「VVVF(Variable Voltage Variable Frequency)インバータ制御装置」、「回生ブレーキ」などを導入しています。走行時の消費電力を従来車両(2600系)との比較で約35%削減し、「クリーン輸送」の実現に貢献しています。



SDGsを実現するライフスタイルを提案する

京阪グループの「BIOSTYLE PROJECT」について

健康的で美しく、クオリティの高い生活を実現しながら、SDGsの達成にも貢献していく。京阪グループでは、そんな循環型社会に寄与するライフスタイルを「BIOSTYLE(ビオスタイル)」として展開し、お客さまにご提案しています。

規制や我慢だけから生まれる活動ではなく、“人にも地球にもいいものごとを、毎日の生活の中に、楽しく、無理なく、取り入れていくことができる明るい循環型社会の実現”に貢献するため、京阪グループにできる様々な活動を推進していきます。

- ▶ 13000系は、BIOSTYLEの概念を事業化する取り組みとしてBIOSTYLE事業認証を受けています。
- ▶ 「BIOSTYLE PROJECT」について詳しくはこちら <https://www.keihan.co.jp/corporate/sustainability/biostyle/>



以 上